

# 薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！  
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2021年  
10月1日  
第122号

## シロナタマメ (マメ科)

第三圃場で長く伸びた蔓に大きな葉に隠れている大きな鞘が目につきます。古くから食用、薬用に栽培されていたようで、日本には江戸時代初期に伝わり、九州などで栽培されたそうです。名前の由来は、白い花が咲き、鞘の形が鉈（ナタ）に似ているから。鞘の中に長さ 3 cm くらいの種子が入っていて、それが生薬のトウズ（刀豆）となり、中医学では温中下気を目的に使用しますが、漢方医学では使用しません。日本ではむしろ食用で、若い鞘を輪切りにして醤油に漬けて福神漬としたり、煮物や茶外茶の原料として利用されます。同属植物のタカナタマメやタチナタマメ（ピンク～紫色の花）には、レクチンである concalectin A や canalectin を含み、食用できません。

## ミヤギノハギ (マメ科)

園内の中央付近、ラクウショウの木の下で、美しく枝をしたらせ咲くミヤギノハギが見頃です。「ハギ」という名は、マルバハギ、ヤマハギなどハギ属植物の総称で、草本と木本の間接的な性質の種が多いのが特徴の一つです。ミヤギノハギは日本特産で、庭木として栽培されます。同属植物のヤマハギは、茎葉がコシシ（胡枝子）、根がコシシコン（胡枝子根）という生薬となり、中医学でどちらも清熱、利水を目的に使用しますが、漢方医学では使用しません。ハギは「秋の七草」の一つで、日本の民間薬とし、根を婦人のめまい、のぼせに利用するそうです。ところで、お彼岸にそえる「御萩」は小豆をハギの花に見立てることで、「つぶあん」を使用します。